

農学委員会 土壌科学分科会（第 24 期・第 1 回） 議事録

1. 日時 平成 30 年 3 月 9 日（金） 15:00～16:20

出席者： 南條正巳（委員長）、丹下 健、小崎 隆、中西友子、西澤直子、丸山幸夫、
宮崎 毅、宮下清貴、山岸順子、山本洋子

欠席者： 犬伏和之

2. 場所 日本学術会議 5 階 5-A（1） 会議室

3. 議題

（1） 役員の選出と役割分担

第 24 期の最初の会議であることから、委員全員の自己紹介を行ったのち、委員長に南條委員，副委員長に犬伏委員，幹事に山本委員が選出された。

（2） 第 24 期活動方針について

南條委員長より，土壌科学分科会の「設置趣旨等」ならびに「審議事項」の内容，ついで前期までの活動内容について説明がなされたのち，24 期の活動方針を検討し決定した。

●22 期は東日本大震災の放射能汚染地の除染に関する提言を行った（提言：放射能汚染地における除染について－現実を直視した科学的な除染を－，平成 26 年 [2014 年] 8 月 25 日）。

●23 期は，国際土壌年（2015 年）に因み提言を行った（提言：緩・急環境変動下における土壌科学の基盤整備と研究強化の必要性，平成 28 年 [2016 年] 1 月 28 日）（配付資料 1）。築地市場の移転に伴い豊洲の土壌汚染問題がクローズアップされたことなどから、第 4 回から市街地土壌についての検討を初め，第 5 回には参考人として川東正幸氏（首都大学東京）を招聘し都市土壌に関する説明を受けたのち，「市街地土壌」を 24 期の継続課題とした。

●24 期の中心課題を，「市街地土壌」とした。なお，「市街地土壌」は，農地に限定せず，さらに気候変動等も視野に入れ，土壌の問題を広く取り扱うこととした。

●第 24 期の活動方針について，広く意見交換を行った。「市街地土壌」の問題は多岐にわたることから，もう一回議論をした上でとりまとめ，それを叩き台にして進めることとした。さらに，23 期の提言に関連して「土壌保全基本法の制定」，「SDGs」および「土壌教育」についても問題提起があり、

次回以降さらに意見交換をして絞ることとした。

(3) 特任連携会員について

南條委員長より、川東正幸氏（首都大学東京）の推薦があり、承認された。

(4) 第23期・第5回議事要旨の確認

原案通り了承された。

配付資料

1. 提言：緩・急環境変動下における土壌科学の基盤整備と研究強化の必要性
（平成28年 [2016年] 1月28日，日本学術会議 農学委員会 土壌科学分科会）
2. 総説：人工物質の影響を受けた土壌の取り扱いー日本の土壌分類体系と Soil Taxonomy 及び世界土壌照合基準の比較ー（木田仁廣&川東正幸，ペドロジスト，第61巻 82-92，2017）
3. 前回議事録，土壌科学分科会・IUSS 分科会設置説明資料

以上